

各地からの便り

アイヌ文化伝統の丸木舟「チブ」制作

【日高南部森林管理署】

2月20日（土）と21日（日）の2日にわたり、アイヌ文化伝統の丸木舟「チブ」を制作するため、新ひだか町静内西の沢の国有林において、カツラ大径木3本の伐採作業が行われました。1番の太い木は、胸高直径96センチメートル、樹高約30メートル、樹齢約250年でした。

この取組は、昨年の春に千歳市及び千歳アイヌ協会よりアイヌ文化伝統の「チブ」を造るためにカツラ大径木の資源状況について問い合わせがあったのが始まりです。



「チブ」制作用の原木

国有林では「アイヌ文化振興への貢献」を重点取組事項としており、千歳市はアイヌ施策推進法に基づき「アイヌ施策地域推進計画」の認定を受けていること、千歳アイヌ協会が同市の地域計画に記載されている団体であることなどから買受希望に応じることとなりました。

これらの原木は千歳市内に運ばれ、8月下旬頃には「チブ」を完成させ、9月のサケを迎える儀式で使う予定のことです。

大型囲いワナによるエゾシカ捕獲事業の現地見学会を開催

【北海道森林管理局】

2月5日（金）、苫小牧市の丸山国有林で大型囲いワナによるエゾシカ捕獲事業の現地見学会を開催しました。当日は、北海道森林管理局の職員のほか自治体の職員、有識者やマスコミにもお越しいただき、総勢90名を超える方々が参加されました。

今回、苫小牧市の丸山国有林で大型囲いワナによるエゾシカ捕獲事業を行う背景として、平成30年に恵庭市の国有林内で起きた猟銃の誤射により職員が死亡するという痛ましい事故が発生し、安全対策上、平坦地における

銃猟入林を禁止せざるを得ない状況となった一方で、エゾシカの動向を調査する簡易チエックシートではエゾシカ増加傾向が確認されていることから、地元の狩猟者や関係者の意見も伺いながら、当該箇所を選定して囲いワナを設置することとし、捕獲したエゾシカをシビエとして有効利用を図ることとしたものです。



大型囲いワナ

エゾシカの農林被害額は38億円にのぼりそのうち林業被害は3千8百万円と少なく感じますがエゾシカによって次の世代の森林となるべき稚樹がなくなるなど、数字に表れない被害が進んでいる現状から、今後も国有林だけでなく民有林や関係者と手を取り合って対策を進めて行くこととしています。

広報「北の森林 国有林」3月号
発行 北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課
〒064-8537 札幌市中央区宮の森
3条7丁目70番
I P 電話 050-3160-6300
電話 011-622-5213
F A X 011-622-5194

<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

今月の木「オヒョウ」

オヒョウの木の皮は、アイヌ文化に関わりの深いアットウシ（織物）の材料になります。

ハルニレとともに、道内で最も早く開花、結実します。

オヒョウの花のイラストを

表紙の月数字の横に載せました。